

SHIRAKOBATO

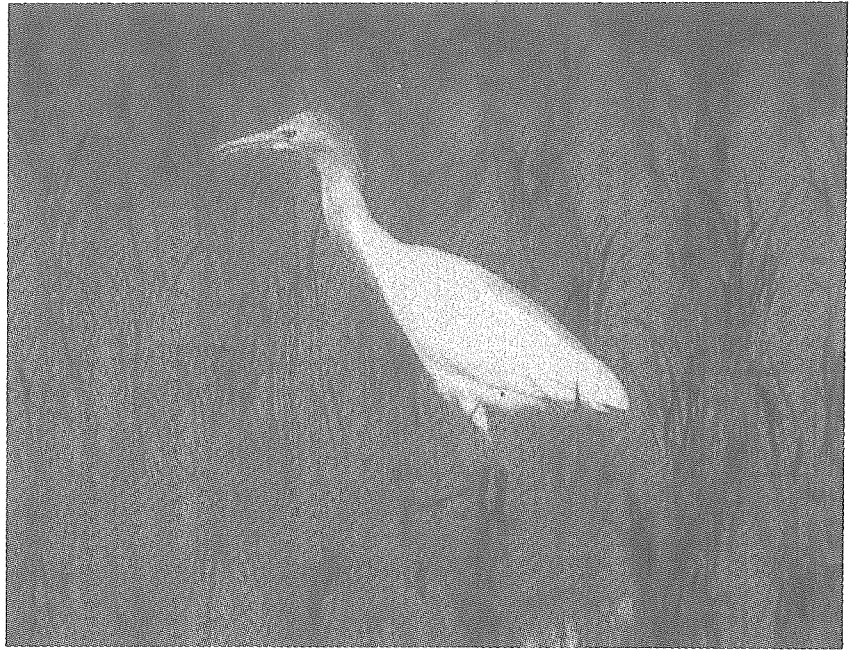
しらこぼ



1993. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 111

日本野鳥の会 埼玉県支部

ツバメチドリの観察 (1992年)

92年度も本庄市の利根川阪東大橋下流にツバメチドリが飛来し、繁殖しました。4月24日初認、7月18日終認まで約3ヶ月の間、主に土、日曜日を観察日に当てビデオ撮影での記録をとると共に観察を行いました。

92年度は成鳥が10羽逐次飛来し、18羽の雛が順次誕生しました。途中、豪雨による中洲の冠水、砂利採取の為の騒音等アクシデントが有りましたが、雛たちも無事に成長し7月18日利根川を後にしました。

ツバメチドリの観察については、既に北川、林両幹事が詳細発表していますので、今回は今回に未発表の行動をメインに報告したいと思います。

1) 繁殖場所

阪東大橋下流約2kmの50m×150mくらいの中洲。砂、砂利、玉石等で形成されていて、木は全く生えておらず、水際に多少草が生えている程度。行政上は埼玉、群馬両県の県境ライン近辺で、中洲の両サイドを本流が流れ孤立化しているのが特徴。

中洲には、先ず、コアジサシがコロニーを形成し、そこにコチドリやシロチドリが同居し最後にツバメチドリが入り共同コロニーとしている。

2) 交尾行動

オスがメスの側まで近づき、平行に並び首を上下に激しく振る。メスは無行動。直後、オスは1mくらいウォーキングしてからメスの脇にクロスする形で立ち止まり再び首を上下に振る。メスの後ろから近付き静かに背に乗る。メスは羽をたたんだ状態で体を低くして、頭を垂れる。オスは羽根を少し広げた状態で交尾行動を数回繰り返す。この行動に入る前に、オスが頭を深く垂れ、地面に付ける



様な行動を数回見せた事があるが毎回ではなかった。上下に首を振る時に、「クリッ、クリッ」と鳴く時もあったが、無言の時もあった。終了後は、お互い同方向のまま佇み、オスの方が羽づくろい後歩き出すケースが多かった。

3) 抱卵行動

一旦、抱卵に入ると、天候に関係なく、かなり強い雨の中でも継続されていた。オス、メス交代で行われていたが、何時間毎に交替しているのかは確認できなかった。抱卵中にカラスやトビが中洲上空に来ると他の仲間たちが警戒音を発していたが、抱卵しているツバメチドリは鋭い目付きで上空を睨んでいた。

交替の時は、巣の近くに来て、歩み寄った方が、首を上下に動かした後、素早く交替していたが、あたりをうかがったり、上空を時々見たり、警戒を怠らなかった。

4) 巣及び卵

繁殖している中洲には入らない紳士協定をバードウォッチャー及びカメラマン同志で結んでいた為、卵の形状や産卵個数は判明しなかった。巣の構造は望遠鏡で見ると、自然の窪みと小石の並びを利用した簡単な物と推測出来たが、中に何か敷いていたかどうかは確認できなかった。

5) 雛の誕生

5月22日、交尾を確認してから約3週間後の6月13日、10羽の雛を確認する。さらに、

6月16日8羽を確認する。合計18羽。

6) 採餌の方法

主として、高速で飛び回りながら餌であるトンボやその他の昆虫を空中で見付けると、巧みに反転しキャッチしていた。時には水辺を歩きながら何やら捕らえていたが詳しくは判らなかつた。オス、メス交互の行動が目立っていた。

7) 給餌の方法

捕らえた餌を中洲に運び、「クリッ、クリッ」と鳴くと雛たちが四方から駆けて来る。一番早く駆けつけてきた雛に先ず与え、順次他の雛にも口移しで与えていた。給餌の時は、必ず他の親鳥が少し小高い所で回りを警戒していた。

8) モビング

ツバメチドリがモビングした相手…人間、犬、ラジコンの飛行機、イタチ、トビ、カラス、モズ、コアジサシ、カッコウ、チョウゲンボウ、蛇。

モビングされた相手…コアジサシ、ツバメ、カルガモ、コチドリ、シロチドリ。

特に、チョウゲンボウ、トビ、カラスに対するモビングは執拗で相手が完全にテリトリーから立ち去るまで追いかけていた。また、モビングはしばしばコアジサシと共同で行われていた。この時、雛たちは小石の陰でじっとしていることが多かった。

雛たちが飛べるようになると、親鳥と一緒に近くの中洲や、草原へフライトし採餌していた。この時、カラスやトビが近くまで来ると、徹底的なモビングを繰り返していた。

野鳥記録委員会最新情報

●ツリスガラの記録2件

1993年4月3日(土)午前7時ころ、戸田市内戸田橋から約1km上流の荒川河川敷で、戸田市立喜沢中学校科学部の生徒たちと顧問萩谷洋教師が、ツリスガラ5羽を観察、写真撮影(下)。午後にはもういなかった。

本県2例目の確認記録(概略前月号既報)



同年同月14日(水)、秋間利夫会員が、幸手市上吉羽の中川河川敷で観察。18日(日)には、同市木立の中川河川敷で2羽写真撮影した。本県3例目の確認記録。

●クロハラアジサシ

1993年5月20日(木)午後4時ころ、本庄市阪東大橋下流約100m付近をコアジサシ数羽とともに飛ぶ夏羽1羽を、井上幹男会員が写真撮影(右)。翌21日(金)午前7時ころ、コアジサシのコロニー付近の中洲で水浴びしている1羽を町田好一郎幹事が観察した。本県初記録。



●ツクシガモ

堀越省一会員が、1993年5月3日(月)午前6時ころ、本庄市阪東大橋下流約1kmの利根川で、ツクシガモ雄成鳥夏羽1羽をビデオカメラで撮影。同日午前11時30分ころ、同人から情報を得た町田好一郎幹事が、やはりビデオカメラで撮影した(上)。本県初記録。



戸隠地方 雨のち晴 一時鳥

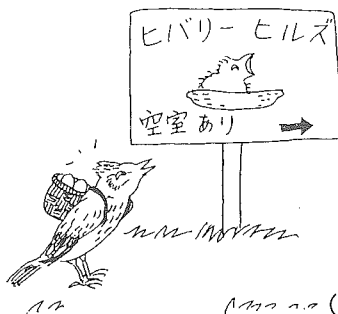
齋藤 比佐実(熊谷市)

当日、朝早い列車の中「私は色とりどりの高原の鳥の期待に胸膨らませ長野に向かっていった」と行きたい所であったが、天気予報は雨、外の暗くなる景色にだんだん憂鬱になっていた。駅からバスに乗り最初の目的地の飯綱高原に着いた時には案の定、外は雨。それでも「せっかく来たのだから」と傘を持ちとにかく外へ出た。

しかし、歩き始めると間もなくトラツグミが歓迎してくれ、昼食後は別荘地にさしかかった所で思いがけずイスカの群れに遭遇。フィールドスコープを1台しか持っていなかったため「アッ」という間に大行列ができてしまい双眼鏡でしか見られなかったのが残念であった。いつしか雨も上りキビタキ、アカゲラなどじっくりと楽しむ事ができた。

次の日は嘘のような上天気になった。予定通り朝3時から探鳥会、越水ヶ原のオオジシギのディスプレイライトや戸隠森林植物園ではキバシリ、マジジロ、目の前でさえずるクロジの姿が特に印象的だった。いったん宿に戻り朝食後、植物園を抜けてから奥社へ上り参拝。帰りかけたその時「オオルリ！」の一言にまた駆け登った。そして眺めているとその背後にイヌワシの勇壮な姿が。

他にもゴジュウカラなど数多くの鳥たち、ミズバショウなどの花々、おいしい宿の食事、初めはどうなるかと思ったがとても楽しい2日間でした。最後に幹事の皆様ご苦労さま、ありがとうございます。



11 (押川 歳子)

奥日光探鳥会に参加して

大宮市 兼元義裕

湯元に着いて私自身を歓迎するかの様に、イワツバメが上空を乱舞していた。前日の酔いもすっかり覚め、初めての奥日光探鳥会への参加である。しかも奥日光自体初めての地である。

普段は平地の探鳥会しか参加した事のない初心者ウォッチャーとしては、図鑑でしかお目にかかれぬ本物を見ることができると、まさにわくわくの心境でした。

さえずりが聞こえる「ウン、これはコガラか?」、「コガラか、そうコガラだ」、隣の人に聞くと、「ヒガラでしょう」。カセットで聞いていたコガラとは違う。「そうか日光のコガラは違うんだ」と、この切り替えのよさが私の真骨頂。

湯滝の中段にカワガラスが「もっと楽なところでエサを採ればいいのに」。ミソサザイの声がすれども姿は見えず、やっと見つけた。まさにシルエットでも判別できるあの姿。「静かに止まっていてくれ、チョコチョコ落ちつきのない奴め」。

キビタキの鮮やかな黄色「美しい」。

往復のバスで先輩S氏のビデオを拝見、その取り組み姿勢と行動力にただただ感服憧憬の至りである。

リーダーの方々のご苦労には感謝の一言につきます。一言加えさせてもらえば土日に来るからと鳥君たちに約束をしておけば、「下見の時にルリビタキ君は沢山いたのに……」てなことはなかったんじゃないかと……。

人との出会い鳥との語らい、天気はよし、まさに最高の二日間でした。

三宅島探鳥会に参加して

高橋あやか(吹上町)

エンジンの音と揺れから解放され未だ暗い三宅島にあがりました。4月24日、同行23名はどんな鳥に迎えられるでしょうか。曇った空、生暖かい風です。お目当ての鳥に胸が膨

らみます。

空の白むと共に始まる鳥の声の多いのにま
ず驚きました。大路池の静かな岸のミサゴ、
コゲラの木をつつく音、風のざわめきに混じ
るコマドリのさわやかな声、思いの外に小さ
いイイジマムシクイ。富賀神社でアカッコ
の水浴びを間近に見られたのは今回の探鳥最
大の感激でした。農家の庭先でスズメと遊ぶ
アカッコに、年々少なくなると聞くこの鳥
の本来の姿を見て、思いを深く致します。

束の間に過ぎた三宅島。荒れ模様の船に揺
られながら、満足と去り難い未練の残る帰路
となりました。足弱の私をカバーして下さっ
た同行の皆様感謝しながら、もう次の探鳥
会を楽しみにしている次第です。

やっぱり鳥が好き！（その1）

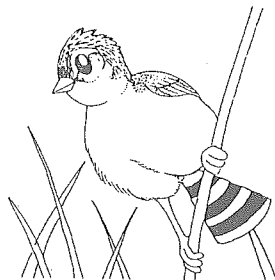
中村 治（上福岡市）

高校生の時に、学校の周囲でバード・ウォ
ッチングをしていた。川と田んぼと小さな林
があるだけの何の変哲もない場所であった。
授業が終わったあと、フィールドをまわって
いたので、冬にはいつも途中で日が落ち、暗
くなってしまった。野鳥はそれほど多いわけ
ではなく、いつも通りいつもの鳥が見られ
る、そのような場所であった。そのいつもの
光景の一つに、春先に田んぼへ現れるキジの
姿があった。桜の花がほころび始める頃から
田植えのために田んぼに水が張られるまでの
間、必ず姿を見せてくれた。雄同士が縄張り
を争っていたり、雄と雌が連れ添っているこ
ともあった。それは春の光景として、今でも
心に残っている。

しかし、この辺りにも宅地化の波は押し寄
せていた。卒業してから一度も訪れていな
い。今でもあの風景は見られるだろうか。

（その2）

バードウォッチャーにとっても、そうでな
い人にとっても憂鬱で鬱陶しい梅雨の季節。
気が滅入ってしまい何をするのもかたたく
く、外出するなんてもってのほか。そして鳥
見人にとって最も気がかりなのは、双眼鏡や
望遠鏡のレンズのカビ。けれども手入れをす



（何森 要）

る気にもなれない。

窓の外は雨。ぼんやり眺めていると「ピー
ヨピーヨ」とヒヨドリの声。それと同時に鮮
やかな緑が目飛び込んでくる。樹や草の緑
を見ているうちに、次第に体がうずうずして
くる。雨に煙るアシ原は趣があっていいよな
あ。それからずぶ濡れになりながらも懸命に
囀るオオヨシキリ。いいな、いいな、見たい
なあ。

そうだ、ちょっと出掛けてみよう。人間に
は傘という便利な物があるではないか。

「雨が降ったら傘さして、傘がなければ
…」それは酒のCMか。



（秋間 利夫）



鳥情報

シマアジ ◇4月22日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(井上幹男)。
ミコアイサ ◇4月10日、戸田市道満調節池で♀1羽(駒崎政雄)。
サンバ ◇4月10日、戸田市道満調節池上空で1羽(駒崎政雄)。
ハヤブサ ◇4月14日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。
コチョウゲンボウ ◇4月15日、深谷市の上武大橋下流で2羽。♂♀のようだ(井上幹男)。
ヤマドリ ◇4月11日、毛呂山町宿谷の滝近くの山林で♂1羽(増尾隆)。
キジ ◇4月18日、浦和市の自宅庭に♀1羽来訪。しばらく木の下やダイコンの花の中でゴソゴソ。すぐ目の前に出てきたり、とてもうれしいひとときでした(墨江光子)。
クイナ ◇4月15日、本庄市の阪東大橋下流で1羽、真っ赤なクチバシで、アシ原からアシ原へと移動しながら採餌していた(町田好一郎)。
ムナグロ ◇4月10日、戸田市道満調節池で1羽(駒崎政雄)。◇4月15日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。
メダイチドリ ◇4月22日、本庄市の阪東大橋下流で夏羽1羽。春に見るのは初めて(井上幹男)。
クサシギ ◇4月20日、深谷市の上武大橋下流で夏羽1羽(井上幹男)。
ヤマシギ ◇4月14日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。
オオジシギ ◇4月5日、戸田市道満調節池で1羽(駒崎政雄)。
ユリカモメ ◇4月16日、川越市の伊佐沼で夏羽1羽(中司隆由)。
コアジサシ ◇4月17日、戸田市道満調節池で2羽(駒崎政雄)。
コミミズク ◇4月18日、戸田市道満調節池で2羽(駒崎政雄)。
アマツバメ ◇4月10日、戸田市道満調節池で2羽(駒崎政雄)。◇4月10日、本庄市

の阪東大橋下流で3羽。紺碧の空に吸い込まれていった(町田好一郎)。

ビンズイ ◇4月24日午前7時、上尾市の大宮ゴルフコースの松の木で1羽。尾をふりふり「ピンピンズイズイ～」とさえずった(立岩恒久)。

ヒヨドリ(渡り) ◇4月15日午前7時、上尾市の大宮ゴルフコース上空を低く北へ50羽以上、その10分後にも100羽以上の群れが渡っていった。4月17日午前8時、同所で70羽以上が渡る(立岩恒久)。◇4月24日午前7時、上尾市の中分氷川神社の森上空を70羽以上の群れ。その10分後にも50羽以上の群れが北へ渡る(立岩恒久)。

ノビタキ ◇4月10日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。かなり夏羽に変わっていた(町田好一郎)。◇4月18日、戸田市道満調節池で夏羽の♂1羽。(駒崎政雄)。

アカハラ ◇4月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇4月6日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。タイミングよくシロハラまで出てきて紅白そろいぶみ(鈴木啓紀)。◇4月11日、上尾市の大宮ゴルフコース付近の林で「キョロンキョロン」と数回さえずった(立岩恒久)。◇4月18日、北本市の荒井橋下流の荒川河川敷そばの栗林で1羽(内藤義雄)。

オオヨシキリ(初認) ◇4月20日、深谷市の上武大橋下流で1羽。大きく口を開けさえずる(井上幹男)。◇4月23日、戸田市道満で2羽(高橋美保子)。◇4月24日、吉見町の吉見運動公園で1羽。翌朝は複数に増えていた(長島岩雄)。◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(福井亘)。4月25日、北本市石戸宿の北本自然観察公園で1羽(立岩恒久)。

センダイムシクイ(さえずり) ◇4月17日秩父市美の山で1羽(山岸昭治)。◇4月20日、行田市の埼玉古墳公園で1羽(逸見嶮)。◇4月24日、上尾市の大宮ゴルフコースの森で1羽(立岩恒久)。◇4月24日浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井亘)。

キビタキ ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でぐぜり、浦和市秋ヶ瀬の子供

の森で♂1羽(福井巨)。

オオルリ ◇4月24日、行田市の埼玉古墳公園で♂1羽。10m程先の枝に(逸見嶮)。

◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂1羽(福井巨)。

エナガ ◇4月8日、秩父市の羊山公園で1羽。世帯やつれて尾の先が曲がり、いたいたい(山岸昭治)。

ヒガラ ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(福井巨)。

ヤマガラ ◇4月12日、浦和市秋ヶ瀬公園野鳥園わきの桜の木で1羽。さえずっていた(鈴木美由貴)。

キバシリ ◇4月18日、三峰神社で2羽(菱沼一充)。

ツリスガラ ◇4月11日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で♂♀各2羽(高橋達也)。◇4月14日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇4月17日、戸田市道満調節池、上流側の池に広がる枯れたアシ原で♂6羽♀3羽。鳴き声はメジロの声を濁らせた「チーチー」という感じでした。2時間ほどその周囲を移動して、餌をとっていた。その後、護岸より上の草地へと移動してしまっ。午後にはその場所にはもう姿はなかった(駒崎政雄、有山智樹)。◇4月18日、幸手市木立の中川で2羽(秋間利夫)。

ホオアカ ◇4月5日、戸田市道満調節池で3羽(駒崎政雄)。

アオジ ◇4月3日、与野市下落合の自宅そばで越冬していたのがさえずっていた(石井智)。◇4月8日、秩父市の羊山公園でさえずる(山岸昭治)。

クロジ ◇4月18日、北本市の荒井橋下流の



★ツバメ★



★イワツバメ★



★アマツバメ★



★ヒメアマツバメ★

(渡辺 敦)

荒川河川敷そばの栗林で2羽(内藤義雄)。

◇4月19日、戸田市の戸田公園、トイレ横の林で♂1羽(高橋達也)。◇4月24日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂2羽以上(福井巨)。

マヒワ ◇4月4日、大宮市日進1丁目で約30羽。芽吹いた木のこずえで、騒がしくざわめいていました(浅見健一)。◇4月6日浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で約10羽。まだいた(鈴木啓紀)。◇4月22日、秩父市の羊山公園で約30羽(山岸昭治)。

ウソ ◇4月18日、三峰神社で♂2羽(そのうち1羽アカウソ)♀1羽(菱沼一充)。

イカル ◇4月6日、桶川市若宮の自宅付近で1羽。さえずる(立岩恒久)。

コムドリ ◇4月22日、深谷市の上武大橋下流で♂1羽(井上幹男)。◇4月23日、戸田市道満の釣り堀横の林で♀1羽(高橋美保子)。24日、同所で5羽(駒崎政雄)。

カケス ◇4月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇4月15日、上尾市の中分氷川神社付近の森で8羽。騒いでいた(立岩恒久)。◇4月24日、戸田市道満の釣り堀横の林で2羽(駒崎政雄)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

アマサギ(サギ科)

午後4時30分。いつものコースで家路へと急ぐ。ふと横を見ると、早苗の中を、アマサギがウォーキングしている。

助手席のカメラに500mmをつけ、あわてて2~3枚速写する。

シャッター音にくるっと振り向いたアマサギは、次の瞬間、ファインダーから消えていた。

ペンタックスLX500mm F8 1/250秒 RDP 町田好一郎(本庄市)

行事あんない



奥日光探鳥会

期日：7月3日（土）

集合：午前10時30分戦場ヶ原赤沼バス停

交通：東武線快速（浅草7:10、北千住7:20、春日部7:42）に乘車、東武日光9:12着。
東武日光駅9:21発湯元温泉行きバスに乘車、赤沼下車。切符は日光フリーパスが便利。車での参加も可能です。

担当：中島康夫、松井昭吾、福井恒人、草間和子

見どころ：ワタスゲの白い穂がそよぎ、レンゲツツジの紅が燃え立つ戦場ヶ原で、ノビタキ、ホオアカなどを探しましょう。

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月4日（日）

集合：午後5時30分 西上尾第2団地バスセンター（その後、現地まで歩きます。約20分）

交通：JR高崎線上尾駅西口東武バス5番乗り場（第一勧銀前）より17:04、17:11のバスに乘車

解散：午後7時ごろ

担当：立岩恒久、楠見邦博

見どころ：恒例の夕涼み探鳥会。主役はもちろんアオバズクですが、身近な鳥たちが眠りにつく様子を観察するのも面白い。いちばん遅くまで起きているのはどの鳥かな？

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

注意：蚊が気になる方は、虫よけや虫さされの薬をお持ち下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月11日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または寄居9:03発に乘車

担当：菱沼一充、森本國夫、林滋、関口善孝、菱沼洋子、斉藤比佐実、塚本典子、中島章二

見どころ：親子でこんにちは。大麻生は子育てで大忙し。梢で餌をねだるムクドリの子。カイツブリの子はお母さんの背中でお昼寝中。パンの親子はアシ原の中でなにをしているのかな。



（黒田佳子）

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月18日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、田口浩司、笠原伸子、馬場昇、岡部泰三、嶋田和江

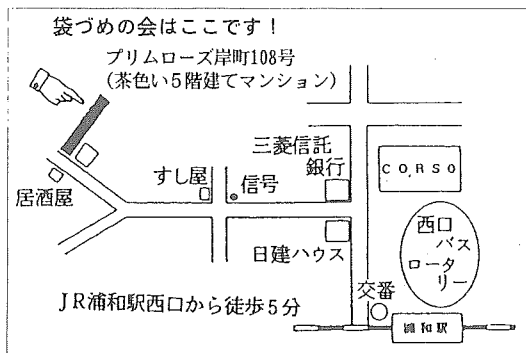
見どころ：昨年は100回記念の探鳥会を7月に行いましたが、早くも1年が経ちました。梅雨明けの見沼たんぼを歩いてみましょう。きっと素晴らしい発見があることでしょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月31日（土） 午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局（地図参照）隣の108号室

案内：鳥仲間たちとおしゃべりしながら、軽いお仕事。ひととき、暑さを忘れられます。



野鳥写真クラブ定例会

とき：7月31日（土） 午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：画面に登場するのは、山の鳥、水辺の鳥、全国各地の鳥に海外の鳥と、何でもアリ。しかも、どアップ、大迫力。見ているだけでも充分楽しい。けれど、そのうちウズウズしてきて……かくしてビデオウィルス感染者は増えてゆくのです。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月25日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42発または所沢8:39発に乗車

解散：稲荷山公園にて正午ごろ

担当：長谷部謙二、三田長久、石井幸男、佐久間博文、柳原正昭、小野光明、中村祐子、山本真貴子

見どころ：カワセミ、ササゴイ、コサギ、魚とり名人のお手並拝見。おっと、その前に、暑さ対策、UVケアをお忘れなく。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月1日（日）

集合：午前8時30分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい。駅には午前8時15分ごろまでにお越し下さい。

担当：岡安征也、榎本秀和、内藤義雄、吉原俊雄、立岩恒久、関口善孝

見どころ：鳥たちが影をひそめる盛夏は、リーダー泣かせの季節。それでも昨年は、コジュケイやサシバなどが登場しました。野鳥のために、日夜努力を続ける石戸宿のリーダーたちを、天は今年も見放さない！…はずです。

8月8日（日）大麻生定例探鳥会

8月15日（日）三室地区定例探鳥会



行事報告

2月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア:11人

赤塚義正、荒木恒夫、池永重子、伊藤宏、岩波勇一、海老原教子、角田真喜子、佐久間博文、桜庭勇、墨江光子、渡辺敦

3月14日(日) 熊谷市 大麻生
参加:50人 天気:快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ
コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ
カルガモ コガモ オナガガモ ノスリ チ
ョウゲンボウ イカルチドリ クサシギ イ
ソシギ セグロカモメ キジバト コゲラ
ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロ
セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョ
ウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カ
ワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス(40種)前日に続
いて今日も風が強い。先月ほどではなかつた
ので明戸堰へ向かう。土手ではスマレが小さ
な花を咲かせていた。「猛禽!」との声で見
上げると、強風の中、ノスリが悠然と舞って
いた。川の上空を見慣れない鳥が飛んだ。セ
グロカモメだった。彼は昨日の強風で迷っ
てしまったのだろうか。コハクチョウは30羽ほ
どで、先発隊はもう北国へ向かったようだ。

(菱沼一充)

3月14日(日) 川越市 西川越
参加:42人 天気:晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガ
モ オナガガモ タカSP チョウゲンボウ
イカルチドリ タゲリ イソシギ セグロカ
モメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ モズ
ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ

カワラヒワ シメ ムクドリ ヒヨドリ ス
ズメ ハシボソガラス ハシブトガラス(30
種)前日からの風が強く、鳥が見づらかつた
が、カワセミは参加者全員がじっくりと見ら
れて満足。また、土手には、関東タンポポヤ
スマレが咲いて、春が近づいているのを感じ
た。
(佐久間博文)

3月20日(土) 秩父市 羊山公園
参加:43人 天気:晴時々曇

キジバト コゲラ キセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロ
ハラ ツグミ ウグイス エナガ コガラ
ヒガラ シジュウカラ ホオジロ カシラダ
カ アオジ アトリ カワラヒワ ウソ シ
メ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガ
ラス ハシブトガラス(26種)朝の挨拶をし
て出発しようとしたら、早々とお目当てのウ
ソが出てしまった。じっくりと堪能して、も
う探鳥会は終わりにしようかなと思ったけど、
みんなの冷たい視線の圧力に負けてやむなく
出発。歩いてよかった。目ん玉が寄っちゃい
そうな近距離でまたウソが見えたグループも
あるし、エナガもかわいいし、カシラダカも
いっぱい。オタマジャクシもごちゃごちゃご
ちゃごちゃ……。
(海老原美夫)

3月21日(日) 浦和市 三室地区
参加:58人 天気:晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガ
ガモ バン コチドリ タカブシギ タシギ
ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲ
ラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキ
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シ
ジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ
オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクド

り オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 代用水を歩いていくと、上空をイワツバメがジリリ、ジリリと鳴いて飛んでいた。芝川の川面を低くツバメがヒューと飛んで、夏鳥の季節がやってきた。冬鳥と夏鳥の交差する時、花を見ながらの楽しい探鳥会だった。(楠見邦博)

3月27日(土) 浦和市見沼ヘルシーロード

参加: 42人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ コジュケイ コチドリ ユリカモメ シラコバト キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 桃や木蓮などが咲きそろった初めてのコースをあるいた。とてもあたたかい日差しの中、お目当てのツバメや、帰り支度にいそがしい(?) たくさんの冬鳥たちに会うことができた。やっぱり春はいいね。

(伊藤芳晴)

3月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 18人

赤塚義正、荒木恒夫、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、神場真文、工藤由紀子、佐久間博文、桜庭勇、墨江光子、中村治、中村榮男、藤野富代、松井昭吾、山岡百合子、山岸重雄、吉本富美子

3月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 19人 天気: 小雨

カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ トビ チョウゲンボウ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス

オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) きのうは、ぼかぼか暖かな陽気だったのに、きょうは肌寒く小雨まで降りだすあいにくの天気。しかし、空にはツバメが飛び、川にはコチドリ、カワセミ、足元には、カキドオシやヒメオドリコソウが咲き、入間川はすっかり春の装い。稲荷山公園では、ヤマガラとシジュウカラがさえざりながらお出迎え。鳥合わせのころには、雨が強くなってきて、滑り込みセーフといった感じだった。

(長谷部謙二)

4月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 89人 天気: 曇

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ ツミ ハイタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジクイナ バン タシギ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 総勢89人参加の盛大なお花見探鳥会となった。急遽一般参加のリーダーの方にお手伝いを依頼。枝垂れ桜にアカハラ、エドヒガンにハイタカ、ソメイヨシノにツミが、それぞれ彩りを添えてくれ、更に、マヒワの群れも出現し、皆大満足。最後にイチゴを一つずつはおぼって解散。東光寺のカバザクラと板塔婆、子供公園のカタクリもしっかり見てくれたかな。(追記: 雨中の二次会では、レンジャクとオオアカゲラも登場した。)

(岡安征也)

行事報告タイトルまだまだ募集中!!

どなたか描いてくださいませんか。文字はこちらで用意できますので、絵の部分だけでも結構です。縦横比は現在と同じ程度で、寸法は大きめに描いてくださると好都合です。きれいに印刷するため、墨や黒インクをお願いします。

連絡帳

●関東ブロック協議会で研修

6月5日(土)～6日(日)の2日間、群馬県榛名湖畔において、関東ブロック協議会(群馬県支部担当)が開催され、9支部から34人が集まりました。当支部からは、松井支部長・海老原副支部長・登坂幹事・菱沼幹事・町田幹事の5名が出席。協議会の運営要領について話し合った後、来年度から本格的にスタートする「鳥の生息環境モニタリング調査」の研修。本部研究センター植田研究員を講師に、早朝4時起きの実習も含め、ハードなスケジュールをこなしました。

●越谷市・傷病野鳥の里親募集

5月15日付け埼玉新聞によれば、越谷市が傷病野鳥の保護治療・里親事業をスタートさせたとの事。本誌5月号で紹介したとおり、県では1988年から実施していますが、市町村レベルでは初めて。登録した里親には、講習会やエサ代の補助などが検討されています。

問い合わせ先＝環境部環境保全課環境保全係(TEL 0489-64-2111内線2257)

●バードウィークのパネル展

4月中から5月17日まで、JR亀戸駅ビル・亀戸エルナードで、アイリスメガネ主催のパネル展「地球を感じるバードウォッチング」が開催され、三菱信託銀行大宮支店では、ロビー展「春から夏の水辺の野鳥」を5月いっぱい開催、ともに当支部所蔵の野鳥写真パネルが役立てられました。

●バードソン1993参加チーム募集中

出水のツル越冬地の買い上げを目指して、10月31日(日)に実施。公式チーム(先着30チーム)は7月10日、オープンチームは7月15日が申し込み締切りです。

問い合わせ先＝バードソン事務局(TEL 03

-3406-7460 林山・京極)

●探鳥会の指導

5月16日(日)北本市の雑木林を考える会(白川代表)主催の探鳥会が開催され、依頼を受けて吉原幹事が指導に当たりました。

●7月の土曜日当番(2時～6時)

- 3日 森本國夫 新堂克浩
- 10日 渡辺 敦 中島章二
- 17日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 24日 笠原伸子 高草木泰行(校正)
- 31日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

6月1日現在 2,248人です。

活動報告

5月8日 研究部会議。

5月15日 『しらこぼと』6月号編集会議。

5月19日 県会議員ら政治家数名と、自然保護問題に関する対談(海老原)。

5月22日 『埼玉見て歩き・県北版』編集会議。『しらこぼと』6月号校正作業。

5月30日 役員会議(司会・佐久間博文、本部の会費値上げについて・総会準備・その他)。

編集前記

この号の編集会議の日が、浮島探鳥会と重なり、やむなくあらかじめ原稿を書いておいていくことにした。いつもなら作業の終わりに書くこの欄も。だから「前記」。

編集部員の多くが浮島に行くことになっている。我々が楽しんでいるところ、先月の編集会議をすっぱかした山部編集長が、今度はほとんどひとりで、汗かきながら、編集作業をしている……はず。イーヒッヒッ。がんばってね。(海老原)

『しらこぼと』1993年7月号(第111号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用